

30GT4650

© ^(KH) 本田技研工業株式会社
PRINTED IN JAPAN

運転する前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。

NSR50
NSR80

ホンダ車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全に留意し快適なバイクライフをお楽しみください。

お車の引き渡しについて

★お買いあげになりましたら、ホンダ販売店にてこの取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記の説明を受けてください。

- お車の正しい取扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

運転免許について

★この車を一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか、確認してください。

《N S R50》

この車は、第1種原動機付自転車です。

《N S R80》

この車の排気量：79 cm³ (cc)

排気量により必要な免許が異なります。

★この車の乗車定員は、運転者のみの1人です。

取扱説明書について

安全に関する表示について

★この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。

「安全に関する表示」「安全運転のために」「メンテナンスを安全に行うために」は重要ですので、しっかりお読みください。

★車の取扱いを十分にご存じの方も、この車独自の装備や取扱いがありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

また、メンテナンスノートもぜひお読みください。

★車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

★車の仕様、その他の変更により、この本の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承ください。

★安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

★その他の表示



アドバイス

お車のために守っていただきたいこと



知識

知っておいていただきたいこと

知っておくと便利なこと

目 次

安全運転のために	4
各部の名称	10
メータの見かた、使いかた	12
計器類	12
速度計(スピードメータ)	12
積算距離計(オドメータ)	12
エンジン回転計(タコメータ)	13
警告灯・表示灯	14
速度警告灯	14
オイル残量警告灯	14
水温警告灯	15
方向指示器表示灯	16
ニュートラル表示灯	16
サイドスタンド表示灯	16
スイッチの使いかた	17
メインスイッチ	17
前照灯(ヘッドライト)上下切換えスイッチ	19
ホーンスイッチ	20
方向指示器スイッチ	21

装備の使いかた	22
ヘルメットホルダ	22
ハンドルロック	23
リヤカウル	24
小物入れ	26
リヤクッションの調整	27
ロアフェアリング	28
燃料とエンジンオイルの補給	30
燃料の補給	30
燃料コック	31
エンジンオイルの補給	32
正しい運転操作	34
エンジンのかけかた	34
チェンジのしかた	37
走りかた	38
ブレーキの使いかた	40

メンテナンスを安全に行うために	42
日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス	45
日常点検	47
定期点検	50
簡単なメンテナンス	52
ブレーキ	53
ブレーキ液の量の点検	53
ブレーキパッドの摩耗の点検	54
タイヤ	56
空気圧の調整	56
溝の深さの点検	56
交換タイヤの選択について	57
バッテリー	58
バッテリー液量の点検	59
バッテリーの取付け、取外し	60
バッテリー液の補給	61
冷却水	62
冷却水量の点検	62
冷却水の補給	63
クラッチ	65
クラッチレバーの遊びの点検	65

トランスミッション	67
オイル量の点検	67
オイル漏れの点検	69
ドライブチェーン	70
緩み(たるみ)の点検	70
清掃と給油	71
ヒューズ	72
ヒューズの点検、交換	72
車のお手入れ	74
地球環境の保護について	76
色物部品をご注文のとき	77
マフラの純正マークについて	78
フレーム号機	79
オーバーヒートしたとき	80
エンジンが始動しないとき	81
主要諸元	82
サービスデータ	86

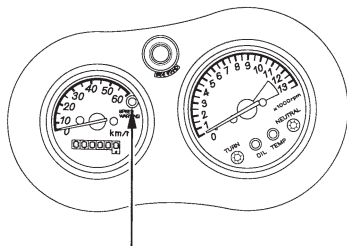
安全運転のために

ここであげた項目は、日常この車を取扱う上で必要な基本的なものです。これらの項目をいつもお守りいただき、安全運転を心がけてください。

《N S R 50のみ》

- スピードメータ部に速度警告灯が装備されています。

車の速度が法定最高速度(30 km/h)を越えると速度警告灯が点滅し運転者に注意をうながします。



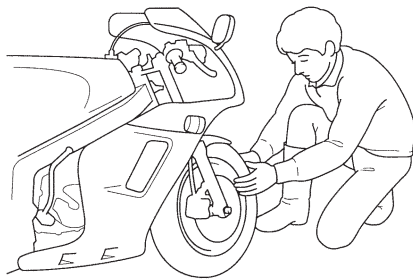
速度警告灯

運転する前に

- 日常点検を行ってください。

車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。

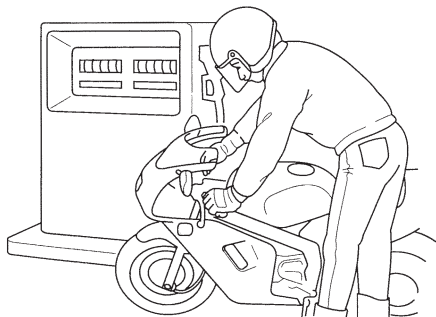
日常点検は、47 ページ参照。



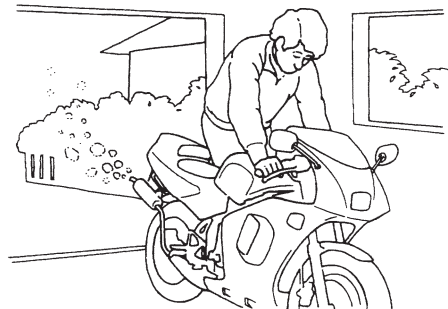
- 定期点検を実施してください。

定期点検は、50 ページ参照。

- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。



- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。



安全運転のために

服装

- 運転者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。ヘルメットの着用は、あごひもを確実に締めるなど、正しく行ってください。

ヘルメットは二輪車でS、SGマークかJISマークのあるものをお勧めします。頭にしっかり合せて圧迫感のないものをお選びください。

- 保護具や保護性の高い服を着用してください。
 - ・フェイスシールドまたはゴーグルの使用
 - ・くるぶしまで覆い、かかとのある靴の着用
ー二輪車用ブーツが望ましい
 - ・摩擦に強い皮製の手袋の着用
 - 長ズボンと長袖のジャケットの着用
 - ー明るく目立つ色の動きやすい服装で体の露出の少ないものを着用してください。
 - ーすその広いズボンや袖口の広いジャケットは、ブレーキやチェンジ操作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

警告

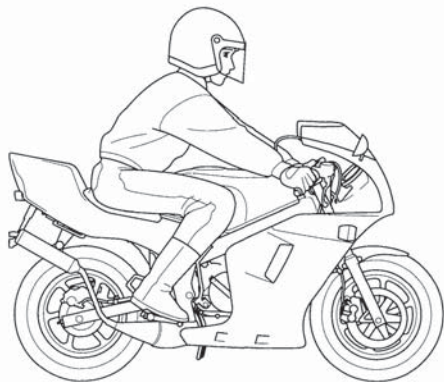
ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

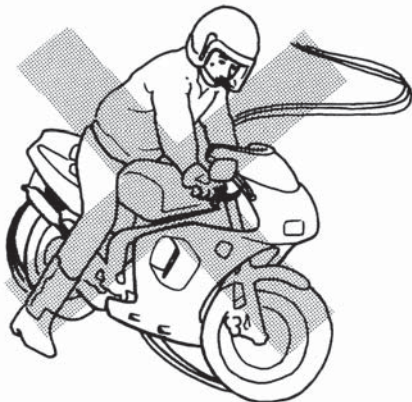


乗りかた

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。



- 急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。
これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。



安全運転のために

荷物

- この車には、荷物を積むための装置はありません。荷物は積まないでください。
- ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作ができなくなる場合があります。物を置かないでください。
- ヘッドライトレンズの前を荷物等でさえぎらないでください。過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。

改造

- 車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。
不正改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。
このような改造に起因する場合は、保証が受けられません。

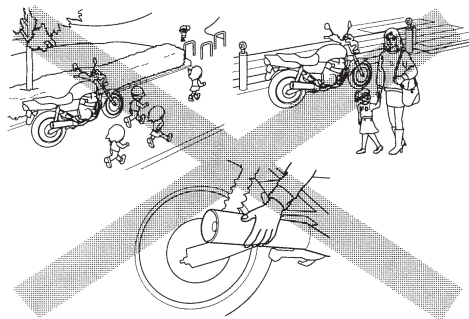
駐車

- 水平でしっかりした地面の場所に駐車してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- マフラなどが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。
- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。

⚠ 注意

マフラ、エンジンなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。このとき、マフラ、エンジンなどに触れるとヤケドを負う可能性があります。

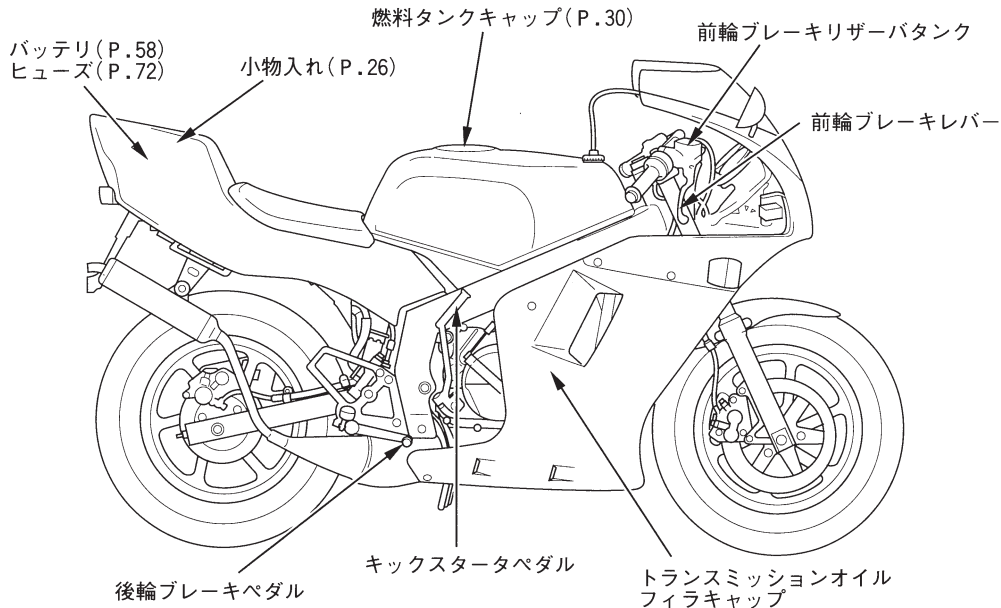
- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の方がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

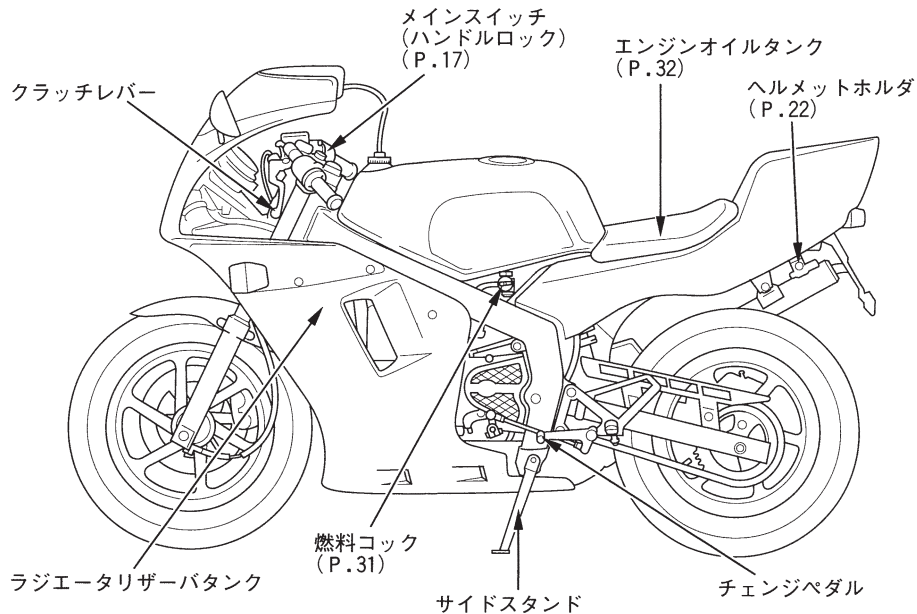


サイドスタンドでの駐車について

- 車は水平な場所にハンドルを左にきって駐車しましょう。
- 次のような状態では、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。
- ハンドルを右にきった状態での駐車。
 - 傾斜地、砂利を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟かい所等での駐車。
- やむをえず上記のような不安定な場所に駐車せざるを得ないときは、車の転倒・動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。

各部の名称





メータの見かた、使いかた

計器類

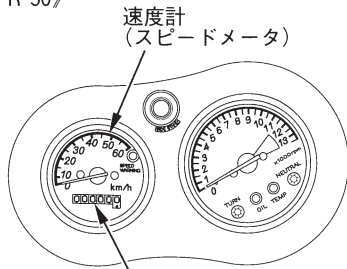
速度計(スピードメータ)

走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

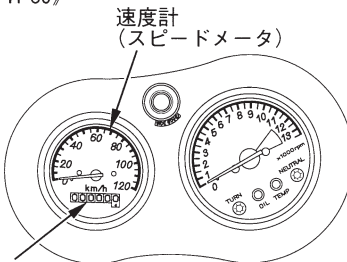
積算距離計(オドメータ)

走行した総距離を km の単位で示します。
白地に黒数字は100mの単位です。

《N S R 50》



《N S R 80》



エンジン回転計(タコメータ)
エンジンの回転数を示します。

エンジン回転数がレッドゾーンに入らないように
してください。

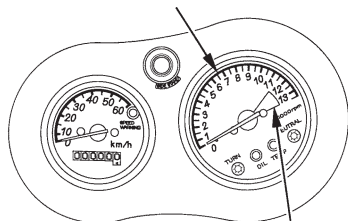
アドバイス

- 空吹かし及び1速2速ギヤ位置での急加速はレッドゾーンに入りやすいので特に注意してください。

レッドゾーンとはエンジンの限界回転域を示したものです。レッドゾーン以上で使用するとエンジン回転が不円滑になり、エンジン寿命に悪影響を与えるだけでなく、最悪の場合エンジンがこわれます。

《NSR 50》

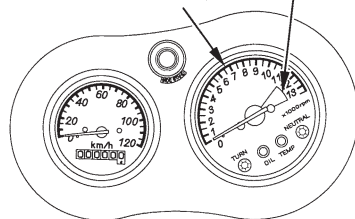
エンジン回転計
(タコメータ)



《NSR 80》

エンジン回転計
(タコメータ)

レッドゾーン



メータの見かた、使いかた

警告灯・表示灯

速度警告灯《N S R 50のみ》

速度が30 km/hを越えると、点滅します。

オイル残量警告灯

オイルタンク内のオイルが少なくなると点灯します。点灯したら、できるだけ早目にオイルを補給してください。

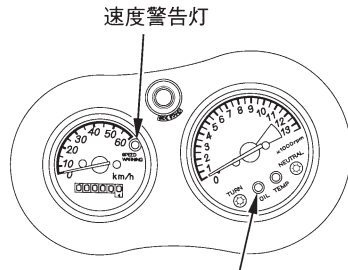
オイルの補給は、32 ページ参照。



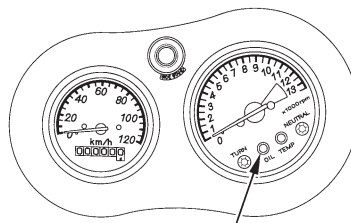
アドバイス

- オイルは切らさないでください。オイル残量警告灯が点灯したまま走行するとオイルが切れエンジンがこわれます。

《N S R 50》



《N S R 80》



《N S R 50》

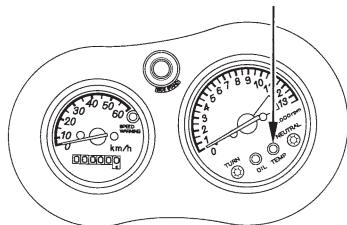
水温警告灯

メインスイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度が規定以上になると点灯します。

エンジン回転中に点灯した場合、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。

処置手順は、80 ページ参照。

水温警告灯



 アドバイス

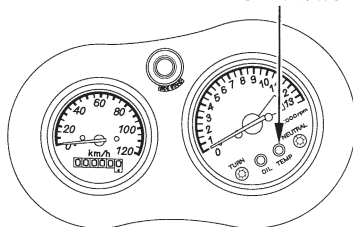
- 水温警告灯が点灯したまま、走行を続けるとエンジン故障の原因となります。

 知識

- 高温下での長時間にわたるアイドリングにより警告灯が点灯する場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、またはエンジンが冷えるまで停止してください。

《N S R 80》

水温警告灯



メータの見かた、使いかた

方向指示器表示灯

方向指示器が点滅しているときに点滅します。

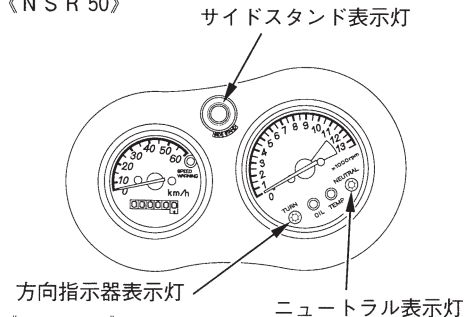
ニュートラル表示灯

メインスイッチのキーが“ON”の位置にありチェンジがニュートラルの位置にあるとき点灯します。

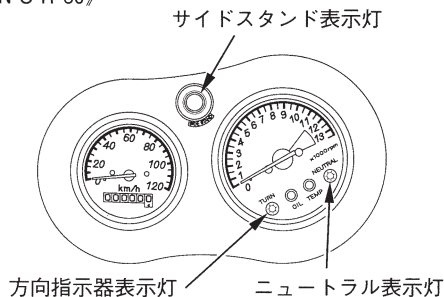
サイドスタンド表示灯

メインスイッチのキーが“ON”の位置にありサイドスタンドが使用状態のとき点灯します。

《N S R 50》



《N S R 80》

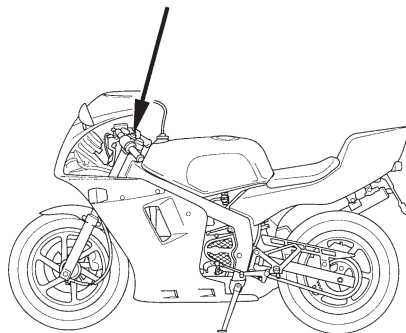
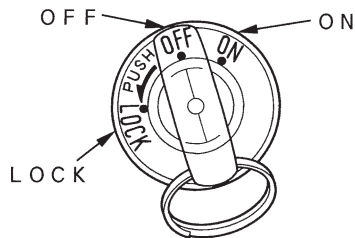


スイッチの使いかた

メインスイッチ

メインスイッチは電気回路の断続を行います。

キーの位置	作 用	キーの脱 着
O N	始動・昼夜間走行 ● ホーン・方向指示器・制動灯(ストップランプ)などが使える	抜けない
OFF	停止 ● 電気回路を全部遮断する	抜ける
LOCK	ハンドルのロックができる ● 電気回路を全部遮断する	抜ける



スイッチの使いかた

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。

知 識

- 車をはなれるときは、キーを必ず抜いてお持ちください。

前照灯上下切換えスイッチ (ヘッドライト上下切換えスイッチ)

《前照灯(ヘッドライト)の上下切換え》

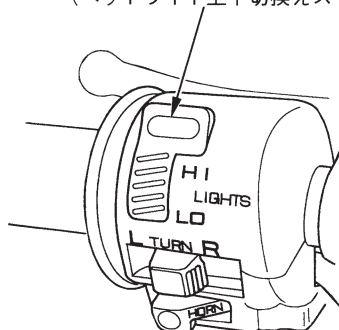
前照灯上下切換えスイッチを押して行います。

HI …… 前照灯(ヘッドライト)が上向き

LO …… 前照灯(ヘッドライト)が下向き

昼間は、下向き(ロービーム)に点灯しましょう。

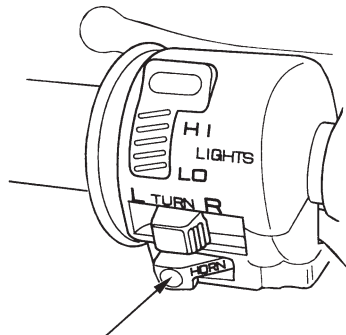
前照灯上下切換えスイッチ
(ヘッドライト上下切換えスイッチ)



スイッチの使いかた

ホーンスイッチ

メインスイッチが“ON”のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。



ホーンスイッチ

方向指示器スイッチ

右左折する時や、進路変更する場合には方向指示器で合図します。

《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを入れます、方向指示器が作動します。

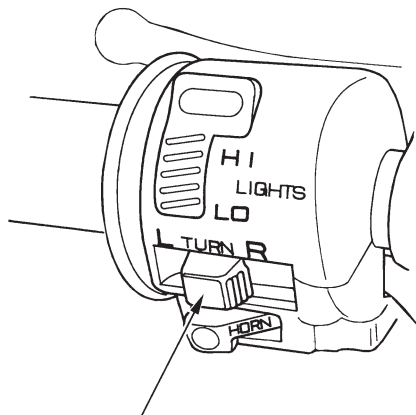
解除は、方向指示器スイッチを押して行います。

R……右折

L……左折

知 識

- 方向指示器スイッチは、自動的に解除しません。使用後は、必ず解除してください。つけたままにしておくと他の方に迷惑となります。
- 電球(バルブ)は、正規のワット数以外のものを使用しますと、方向指示器が正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。



方向指示器スイッチ

装備の使いかた

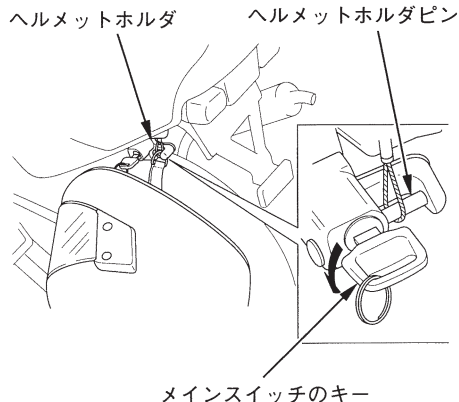
ヘルメットホルダ

ヘルメットホルダは、駐車時のみに使用するものです。

走行時に使用すると、ヘルメットが運転を妨げたり、車体に損傷を与えることがあります。また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

《使いかた》

1. メインスイッチのキーを左に回し、ヘルメットホルダピンのロックを解除します。
2. ヘルメットホルダピンにヘルメットの金具をかけ、ヘルメットホルダピンを押してロックします。



ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

《かけかた》

1. ハンドルを左または右にいっぱいに切ります。
2. メインスイッチにキーを差し込みます。
3. キーを押し込みながら、“LOCK”の位置まで回します。
4. キーを抜きます。

《外しかた》

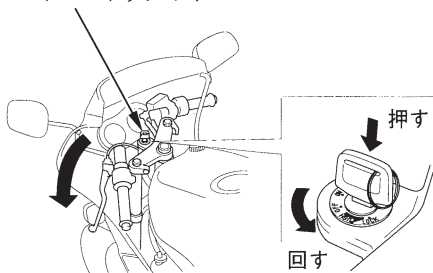
- かけかたの逆の要領で行います。

走行前は、ハンドルを左右に切って切れ角が左右均等であるかを確認してください。

知識

- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを軽く左右に動かして確認してください。

メインスイッチのキー



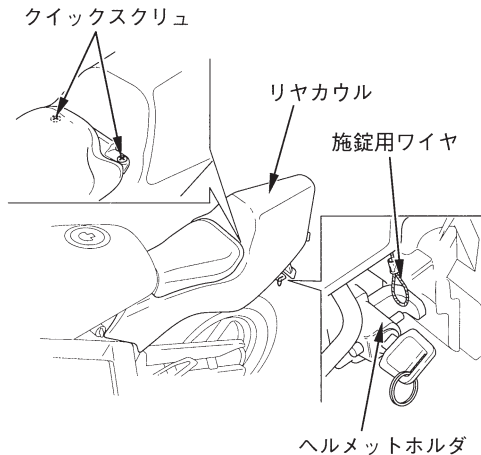
装備の使いかた

リヤカウル

リヤカウルは、左右サイドカバー、シートと一体になっています。取外し、取付けは、次の要領で行ってください。

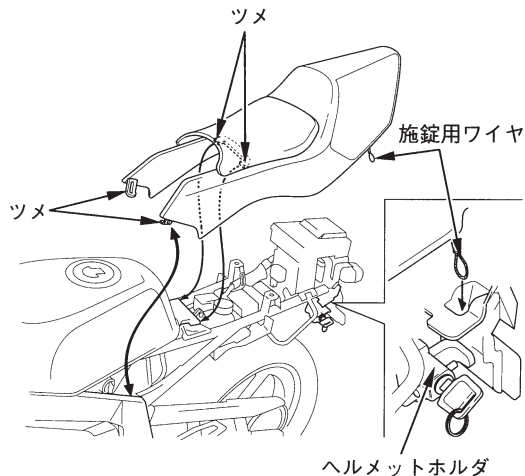
《取外しかた》

1. ヘルメットホルダを解錠し、リヤカウルの施錠用ワイヤを外します。
2. シート後方をめくりクイックスクリュを90°左に回しロックを解除します。
3. リヤカウルを後方へずらしながら持ち上げて、取外します。



《取付けかた》

1. リヤカウル前方のツメとシート前方のツメをフレームの取付け部に合わせます。
2. リヤカウルの施錠用ワイヤをリヤフェンダの穴に通し、ヘルメットホルダでロックします。
3. シート後方のクイックスクリュをロックします。



装備の使いかた

小物入れ

リヤカウルを外すと、バッテリー上に小物入れがあります。

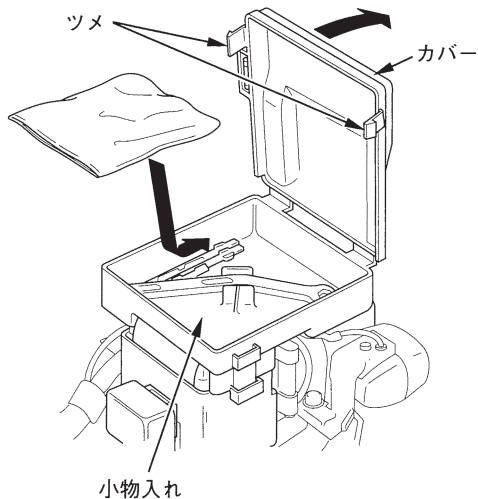
- 取扱説明書やメンテナンスノートなどは、ビニール袋に入れ、ここに格納してください。
- 携帯工具は、ここに格納してください。

《開けかた》

1. リヤカウルを取外します。(24 ページ参照)
2. 小物入れカバー両側のツメを外して、カバーを開けます。

《閉じかた》

1. 小物入れカバーのツメを差し込みながら、カバーを閉じます。
2. リヤカウルを取付けます。



知 識

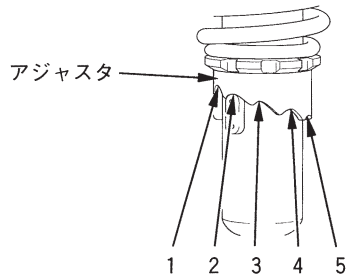
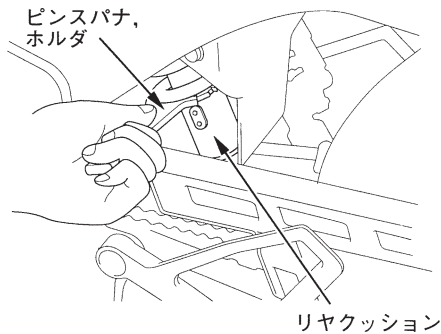
- 貴重品やこわれやすいものは入れないでください。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。

リヤクッションの調整

リヤクッションの強さは、5段に調整できます。体重や路面の状態に応じて調整してください。

調整はピンスパナとホルダを使い、アジャスタを回して行います。

“1”が標準の強さで、2～5と強くなります。



装備の使いかた

ロアフェアリング

ロアフェアリングは左右に分割できます。脱着は片側ずつ下記手順で行ってください。

エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラーやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

《取外しかた》

[右側ロアフェアリング]

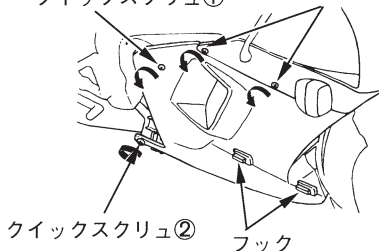
1. クイックスクリュー①、②を90° 左に回してロックを外します。
2. ロアフェアリングを押えながら、クイックスクリュー③を90° 左に回してロックを外します。
3. ロアフェアリングを後方へずらし、フックを外して、取外します。

[左側ロアフェアリング]

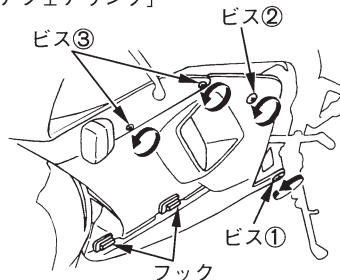
1. ビス①、②を取外します。
2. ロアフェアリングを押えながら、ビス③を取外します。
3. ロアフェアリングを前方へずらし、フックを外して、取外します。

[右側ロアフェアリング]

クイックスクリュー① クイックスクリュー③



[左側ロアフェアリング]



《取付けかた》

[右側ロアフェアリング]

1. ロアフェアリングのフックを確実にセットします。
2. アップフェアリングとの合せ目を調整してから、クイックスクリュー③、②、①を右に回してロックし、ロアフェアリングを取付けます。

[左側ロアフェアリング]

1. ロアフェアリングのフックを確実にセットします。
2. ビス①、②を仮付けし、アップフェアリングとの合せ目を調整してから、ビス③を締め付けてロアフェアリングを取付けます。
3. ビス①、②を締め付けます。

燃料とエンジンオイルの補給

燃料の補給

《使用燃料》

無鉛ガソリン

ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

⚠ 警告

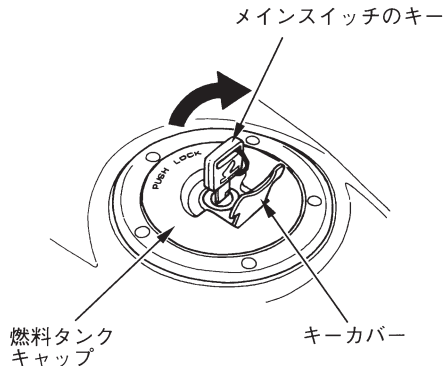
ガソリンは、燃えやすくヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

ガソリンを取扱う場合は、

- エンジンを止めてください。また、裸火、火花、熱源などの火元を遠ざけてください。
- 燃料補給は、必ず屋外で行ってください。
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取ってください。

《補給のしかた》

1. キーカバーを開け、メインスイッチのキーを差し込み右に回して、燃料タンクキャップを開けます。

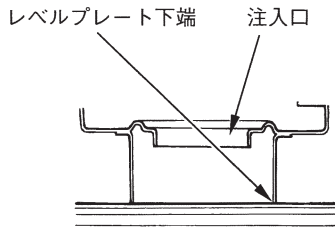


2. ガソリンを注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。

ガソリンをレベルプレート下端以上に入れると、燃料タンクキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出てことがあります。

3. 燃料タンクキャップを手で確実に押してメインスイッチのキーを抜いてください。

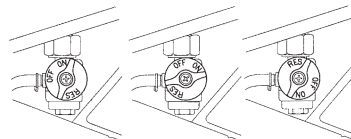
燃料タンクキャップがロックされないと、メインスイッチのキーは抜けません。



燃料コック

レバーの位置が燃料コックの状態を示します。

- ON** ... キャブレータにガソリンが流れます。エンジンを始動するときはこの位置にします。
- OFF** ... キャブレータにガソリンが流れません。乗車するとき以外は、この位置にします。
- RES** ... 予備燃料です。“ON”で走行中燃料がなくなったらこの位置にします。早めにガソリンを補給してください。補給後は“ON”に戻してください。戻し忘れると、走行中に予備燃料がなくなり走行できなくなります。
- 予備燃料容量： 約 1.2ℓ



ON

OFF

RES

燃料とエンジンオイルの補給

エンジンオイルの補給

《推奨オイル》

ホンダ純正オイル(2サイクル二輪車用)

	J A S O M 345規格
ウルトラ2スーパー	F C

相当品をご使用の場合、オイル容器の表示を確認し、JASO FC級をお選びください。

なお、JASO FC級オイルでも、特性が微妙に異なり、この車本来の性能が発揮できない場合があります。

🏍️ アドバイス

- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。オイルの変質などにより、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

🎓 知識

- JASO M 345規格とは、2サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。
なお、規格に適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



上段: オイル販売会社の
整理番号

下段: 性能分類の表示
F C 性能であることを
示しています

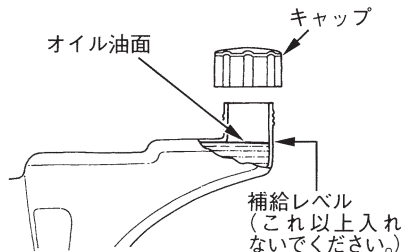
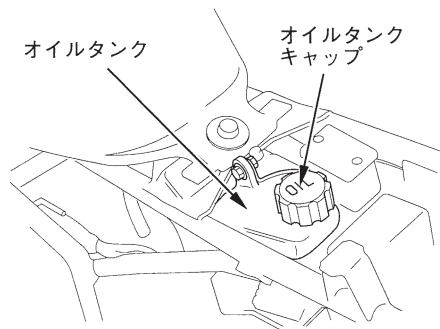
JASO M 345適合品
本FC性能の品質保証者

《補給のしかた》

1. 平坦地で車体を垂直にして、エンジンを停止します。
2. リヤカウルを取外します。(24ページ参照)
3. オイルタンクキャップを取外します。
4. 車体を垂直にして、オイルを補給レベルまで補給します。

オイルは補給レベル以上に入れないでください。オイルがにじみ出るおそれがあります。

5. オイルタンクキャップを取付けます。
6. リヤカウルを確実に取付けます。



正しい運転操作

エンジンのかけかた

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

エンジン始動は、35 - 36 ページの「始動手順」に従い行ってください。



アドバイス

- 無用の空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。



知識

- この車には、サイドスタンドを出したままチェンジを入れると、自動的にエンジンが停止するイグニッションカットオフ式サイドスタンドを採用しています。スタートする前に、必ずサイドスタンドを格納してください。

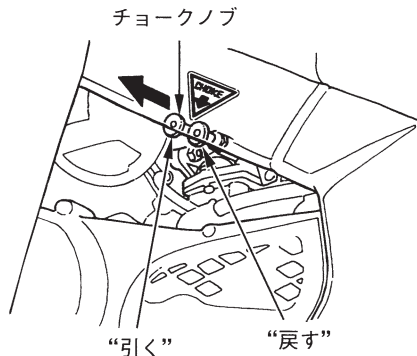
《始動手順》

●エンジンが冷えているとき

1. ハンドルロックが解除されていることを確認してください。
2. 燃料コックレバーが“ON”になっていることを確認します。
3. メインスイッチを“ON”にします。
4. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
5. チョークノブをいっぱいに引きます。
6. スロットルグリップを閉じ、キックします。

※チョークを使用した時は必ずスロットルグリップを戻して始動すること。

(数回キックしてもかからないときは、“エンジンが暖まっているとき”の方法で始動してください。)



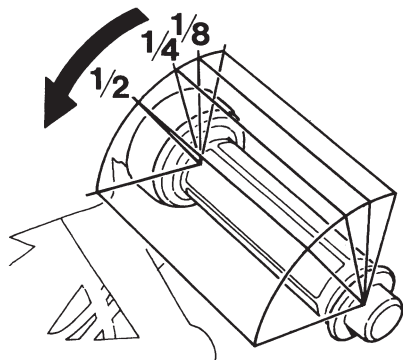
7. エンジンがかかったら、回転がスムーズになるまで暖機運転し(普通30秒ぐらい、特に寒いときは2～3分間ぐらい。)、チョークノブを完全に戻します。
8. サイドスタンドが確実に格納してあることを確認してからスタートしてください。
 - エンジンがかからないときは、81 ページ記載の要領で確認してください。

正しい運転操作

- エンジンが暖まっているとき
 1. ハンドルロックが解除されていることを確認してください。
 2. 燃料コックレバーが“ON”になっていることを確認します。
 3. メインスイッチを“ON”にします。
 4. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)

※エンジンが暖まっているときは、チョークノブを使用する必要はありません。

5. スロットルグリップを $1/8 \sim 1/4$ 回し、力強くキックします。
6. サイドスタンドが確実に格納してあることを確認してからスタートしてください。

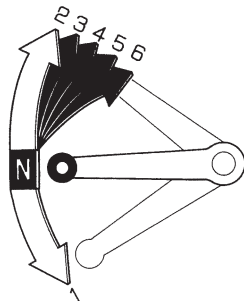


- エンジンがかからないときは、81 ページ記載の要領で確認してください。

チェンジのしかた

チェンジは、右図のような6段リターン式です。

- 変速は、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行います。
- チェンジペダルの操作は、つま先で軽く行い、ペダルにコツンと足ごたえのあるまで確実に操作してください。無理をすると、チェンジ機構を痛める原因となります。



正しい運転操作

走りかた

- 走行前に、サイドスタンドは完全に納まっているか確認してください。
- 車のスピードに応じてギヤを切換えることが必要です。右表は、その速度範囲を示したものです。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命をのばします。

アドバイス

- 走行中に異音や異常を感じたときは、ただちにホンダ販売店で調べましょう。

知識

- 発進は、できるだけ静かに行いましょう。
- 法定速度を守って走りましょう。

《慣らし運転》

最初の1,000 km 走行するまでは、エンジン回転を6,000回転以下で慣らし走行してください。慣らし運転を行うと、車の寿命をのばします。

《N S R 50》

	速 度 範 囲
1 速	0 ～ 25 km/h
2 速	10 ～ 40 km/h
3 速	15 ～ 55 km/h
4 速	20 ～ 60 km/h
5 速	25 ～ 60 km/h
6 速	30 ～ 60 km/h

《N S R 80》

	速 度 範 囲
1 速	0 ～ 30 km/h
2 速	10 ～ 45 km/h
3 速	15 ～ 65 km/h
4 速	20 ～ 80 km/h
5 速	25 ～ 95 km/h
6 速	30 km/h以上

《シフトダウンのしかた》

追い越しするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンをすると加速力が得られます。あまり高い速度で行うと、エンジンの回転が上がり過ぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えるだけでなく、最悪の場合エンジン、ミッションがこわれます。右表の速度内で行ってください。

《N S R 50》

	シフトダウン可能限界速度
6 速→5 速	60 km/h以下
5 速→4 速	50 km/h以下
4 速→3 速	45 km/h以下
3 速→2 速	35 km/h以下
2 速→1 速	25 km/h以下

《N S R 80》

	シフトダウン可能限界速度
6 速→5 速	90 km/h以下
5 速→4 速	75 km/h以下
4 速→3 速	60 km/h以下
3 速→2 速	40 km/h以下
2 速→1 速	30 km/h以下

正しい運転操作

ブレーキの使いかた

- ブレーキは、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う必要があります。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。
- 雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。

- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなることがあります。水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。

《エンジンブレーキ》

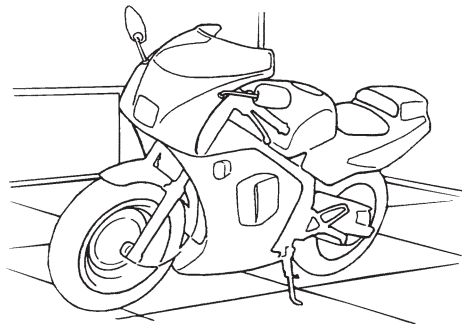
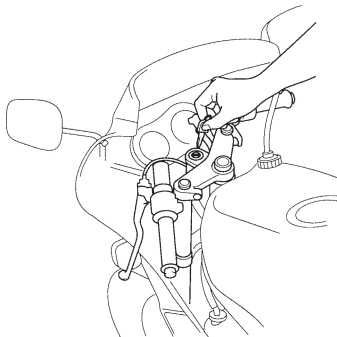
スロットルグリップをもどすとエンジンブレーキがききます。さらにエンジンブレーキを必要とするときは5速、4速……とシフトダウンを行ってください。

急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因となります。39 ページの表にしたがって行ってください。

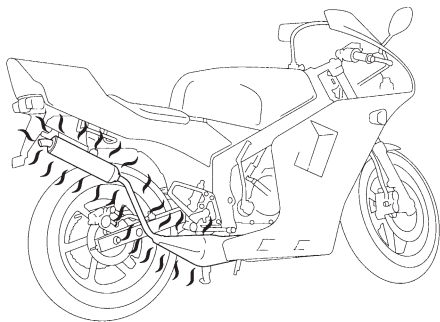
長い下り坂、急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

メンテナンスを安全に行うために

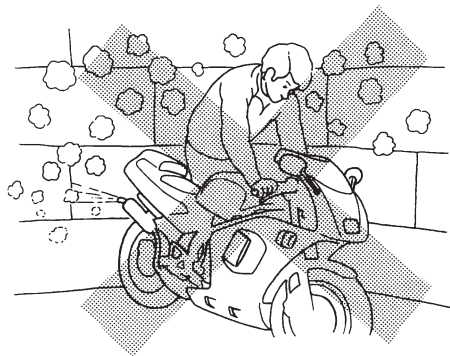
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。



- エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

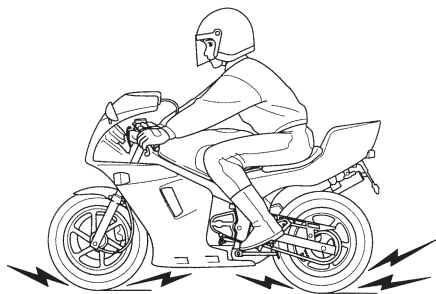


- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



メンテナンスを安全に行うために

- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。
- メンテナンスに工具を必要とするときは、適切な工具を使用してください。



日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、道路運送車両法に準じて1日1回の日常点検と6か月、12か月毎の定期点検整備を設けてあります。

安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

警告

点検整備の方法を正しく行わないことや、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

各点検、メンテナンス等については、以下のページをご覧ください。

1 か月目点検について	46
交換部品について	46
日常点検	47
メンテナンス部品配置図	48
定期点検	50
6 か月点検項目	51
簡単なメンテナンス	52
ブレーキ	53
タイヤ	56
バッテリー	58
冷却水	62
クラッチ	65
トランスミッション	67
ドライブチェーン	70
ヒューズ	72

日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

1 か月目点検について

新車から1 か月目(または、1,000 km時)は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取扱いいたします。

お買いあげのホンダ販売店で行ってください。
他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。

詳細については、別冊「メンテナンスノート」の14ページをご覧ください。

交換部品について

点検整備の結果、部品の交換が必要となった場合は、あなたのお車に最適な“ホンダ純正部品”をご使用ください。

純正部品は、厳しい検査を実施し、ホンダ車に適合するように作られています。

お求めは、ホンダ販売店にご相談ください。
純正部品には、次のマークがついています。

純正部品マーク



日常点検

日常点検

日常点検は、お車を使用する方が1日1回運転する前に実施する点検です。

安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

この車に適用される点検項目は、右記「日常点検項目」です。

下線のついている項目については、「簡単なメンテナンス」に説明があります。52 ページ以後を参照してください。

また、点検項目の部位を次ページの「メンテナンス部品配置図」で示します。参照してください。

点検方法・要領は、別冊「メンテナンスノート」の20ページ以後をご覧ください。

日常点検項目

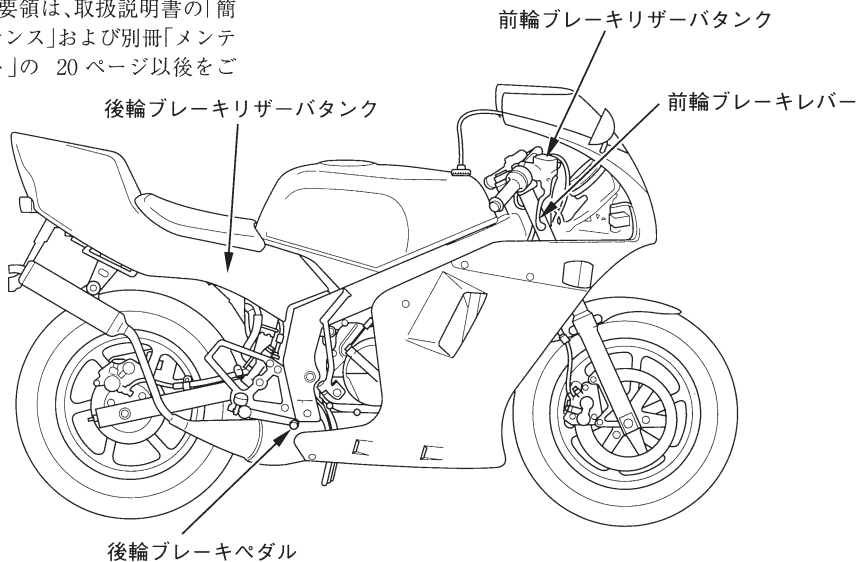
- ブレーキ
 - ・ レバーの遊び(油圧式)
 - ・ ペダルの遊び(油圧式)
 - ・ ブレーキのきき具合
 - ・ ブレーキ液の量
- タイヤ
 - ・ 空気圧
 - ・ 亀裂、損傷
 - ・ 異状な摩耗
 - ・ 溝の深さ(※)
- バッテリ
 - ・ バッテリー液の量(※)
- エンジン
 - ・ 冷却水の量(※)
 - ・ エンジンオイルの量(※)
(2サイクル車)
 - ・ かかり具合、異音(※)
 - ・ 低速、加速の状態(※)
- 灯火装置及び方向指示器
- 前日の運行において異状が認められた箇所

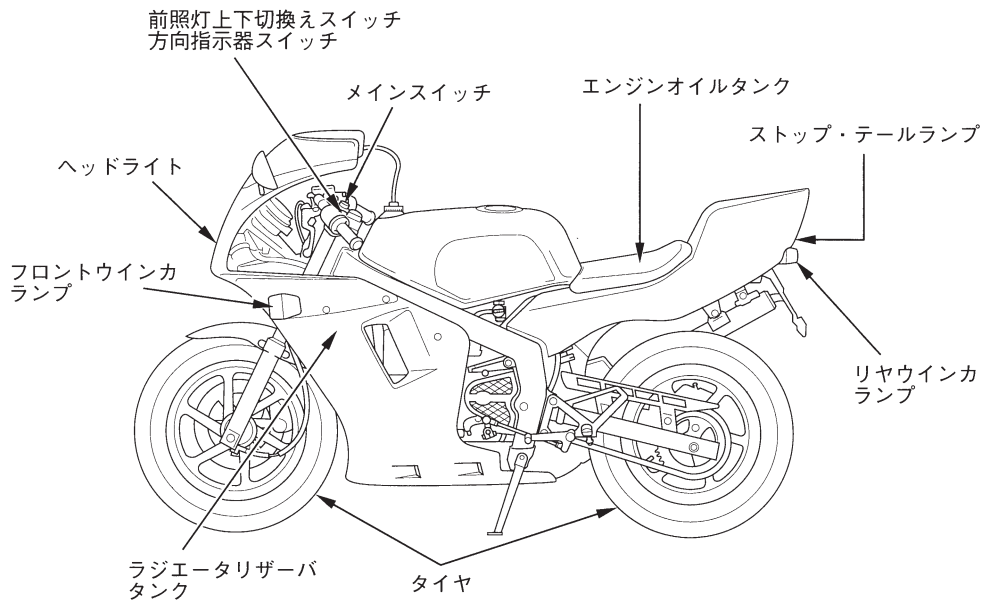
(※)印の点検は、お車の走行距離、運転時の状態等から判断した適切な時期に行う項目です。

日常点検

メンテナンス部品配置図

点検の方法・要領は、取扱説明書の「簡単なメンテナンス」および別冊「メンテナンスノート」の 20 ページ以後をご覧ください。





定期点検

定期点検

定期点検は、道路運送車両法に準じて設られた6か月、12か月ごとの点検と、使い始めてから1か月目(または、1,000 km時)に行う点検があります。また、これらの点検項目のほかにホンダが推奨する点検整備項目もあります。

安全快適にお車をご使用いただくために、点検整備を必ず実施してください。

点検整備の実施は、お客様の責任です。これは、ご自身で行う場合も、他に依頼する場合も同様です。

- ご自身で実施できない場合は、ホンダ販売店にご相談ください。
- ご自身で実施する場合は、安全のためご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、ホンダ販売店にご相談ください。

点検整備のデータは、86 ページのサービスデータを参照してください。

点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

6 か月点検項目は、次ページにあります。

点検内容等、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“定期点検の解説”(23 ページ)をご覧ください。

6 か月点検項目

点検内容は、別冊「メンテナンスノート」の 23 ページをご覧ください。

- 点火装置
 - ・ スパークプラグの状態
- エンジン本体
 - ・ 排気ガスの状態
 - ・ エアクリーナエレメントの汚れ、詰まり
 - ・ エンジンオイルの漏れ
 - ・ 冷却水の量
 - ・ クラッチレバーの遊び
 - ・ クラッチの作用
- トランスミッション
 - ・ オイルの漏れ、量
- チェーン及びスプロケット
 - ・ チェーンの緩み
- ブレーキペダル及び
ブレーキレバー
 - ・ 遊び
 - ・ ブレーキのきき具合
- ホース及びパイプ
 - ・ 漏れ、損傷、取付状態
- ホイール
 - ・ タイヤの空気圧
 - ・ ホイールのボルト、ナットの緩み
- バッテリ
 - ・ 液の量
- スイッチ類
 - ・ 灯火装置、方向指示器の作用

ホンダ推奨 6 か月点検整備項目

点検整備の内容は、54 ページを参照してください。

- ブレーキ装置
 - ・ パッドの摩耗

簡単なメンテナンス

ここでは、通常行われることが多い簡単なメンテナンス（点検整備）について説明しています。

ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で、適切な工具を使用し、メンテナンスを行ってください。
安全のため、技量や作業に必要な工具をお持ちでない場合は、ホンダ販売店にご相談ください。

ブレーキ

《ブレーキ液の量の点検》

[前輪ブレーキ]

平坦地でスタンドを立て、ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にします。

液面が下限 (LOWER) 以上にあることを確認してください。

[後輪ブレーキ]

リヤカウルを除外します。(24ページ参照)

平坦地で車体を垂直にして、ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態にします。

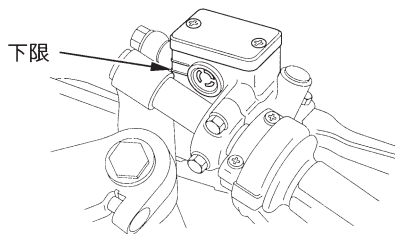
液面が上限と下限の間にあることを確認してください。

液面が下限以下の場合にはブレーキパッドの摩耗が考えられます。パッドの摩耗の点検を行ってください。(次ページ参照)

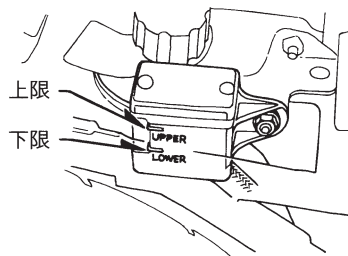
ブレーキパッドが摩耗していない場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。

ホンダ販売店にご相談ください。

[前輪]



[後輪]



簡単なメンテナンス

《ブレーキパッドの摩耗の点検》 (ホンダ推奨 6 か月点検整備項目)

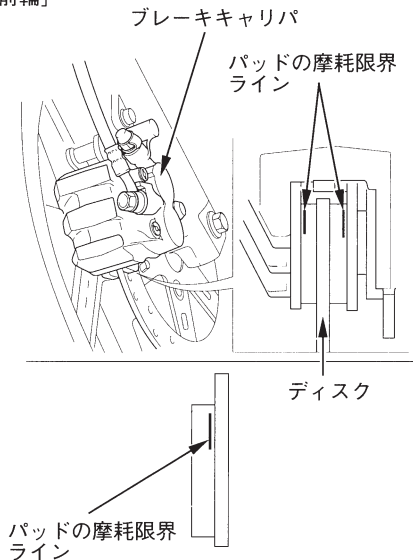
[前輪]

ブレーキキャリパの下側からのぞいて、パッドの摩耗限界ラインがブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

摩耗限界に達したら、ブレーキパッドを左右同時に交換してください。

ブレーキパッドの交換は、ホンダ販売店にご相談ください。

[前輪]



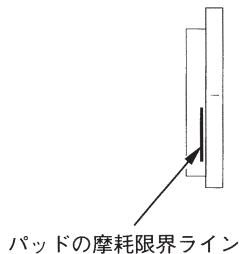
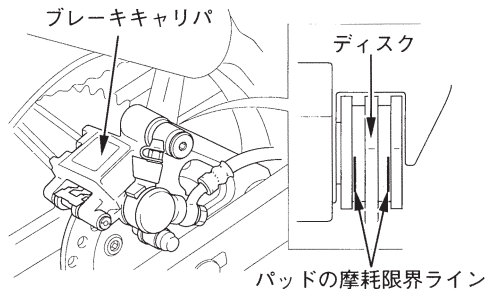
[後輪]

ブレーキキャリパの後側からのぞいて、パッドの摩耗限界ラインがブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

摩耗限界に達したら、ブレーキパッドを左右同時に交換してください。

ブレーキパッドの交換は、ホンダ販売店にご相談ください。

[後輪]



簡単なメンテナンス

タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。

常に適正な空気圧を保ってください。

また、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは、使用せず交換してください。

警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

《空気圧の調整》

タイヤが冷えている状態で、エアゲージを使用し、適正な空気圧にします。

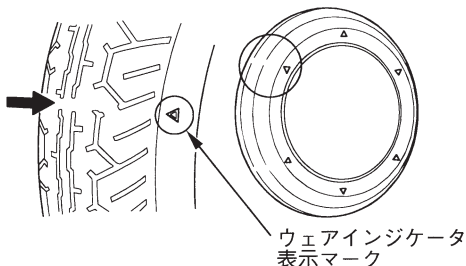
タイヤの空気圧

前 輪	1.50 kgf/cm ²
後 輪	1.75 kgf/cm ²

《溝の深さの点検》

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（スリップサイン）により確認します。

ウェアインジケータがあらわれたときは、ただちに交換してください。



《交換タイヤの選択について》

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。

指定以外のタイヤは、操縦性や走行安全性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、ホンダ販売店にご相談ください。



指定以外のタイヤを取付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取付けてください。

指定タイヤ

前輪	サイズ	100/90-12 48J
	タイプ	ダンロップ T T 90 F G P I R C M B R-710
後輪	サイズ	120/80-12 54J
	タイプ	ダンロップ T T 90 G P I R C M B R-710

簡単なメンテナンス

バッテリー

バッテリーの取扱い

- バッテリー取扱い時には、ショートによる火花やタバコ等の火気に十分注意してください。
- バッテリー液は、希硫酸ですので目や皮膚に付着しないよう十分注意してください。



バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用してください。
- バッテリーを、子供の手の届く所に置かないでください。

万一の場合の応急処置

- 電解液が目が付着したとき
ー コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚に付着したとき
ー 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
ー 水、または牛乳を飲んでください。
応急処置後、直ちに医師の診察を受けてください。

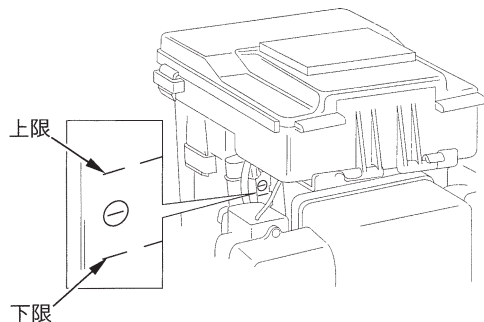
《バッテリー液量の点検》

1. リヤカウルを取外します。(24 ページ参照)
2. 車体を垂直にします。
3. バッテリー各槽の液面が上限と下限の範囲にあることを確認します。液面が下限に近かったら、蒸留水を補給します。
バッテリー液の補給は、60 ページ参照。

警告

バッテリーの液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリーの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。

バッテリーの液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。



簡単なメンテナンス

《バッテリーの取付け、取外し、》

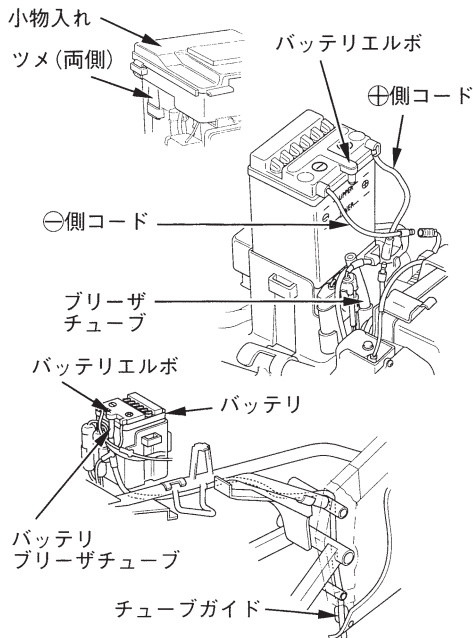
取外し

1. リヤカウルを取外し、バッテリーボックスからツメを外して、小物入れを後方に開きます。
2. ブリーザチューブをバッテリーエルボから外します。
3. ⊖側コードの接続端子を外します。
4. ⊕側コードの接続端子を外します。
5. バッテリーを取出します。

取付け

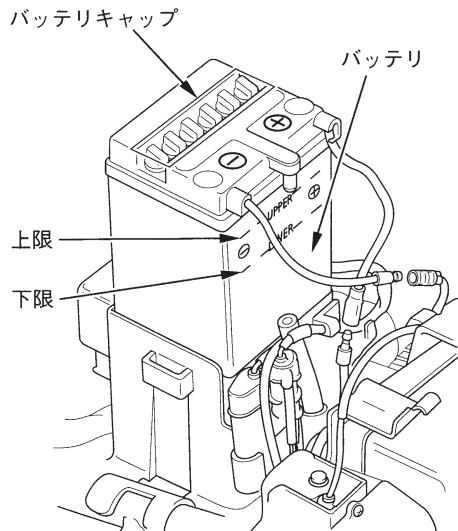
取付けは、取外しの逆手順で行います。

- バッテリーコードの接続端子は、必ず先に⊕側より結線してください。
- バッテリー取付け後は、ブリーザチューブがバッテリーエルボにしっかりと結合されているか確認してください。ブリーザチューブがかんだりつまんでいると、バッテリーの内圧が高くなりバッテリーケースが破損することがあります。イラストに従い確認してください。



《バッテリー液の補給》

1. バッテリーを取外します。(60ページ参照)
2. バッテリーキャップを外します。
3. 上限まで蒸留水を補給します。
蒸留水を入れすぎると、こぼれて腐食の原因となります。
4. バッテリーキャップを確実に取付けます。
5. バッテリーを取付けます。



簡単なメンテナンス

冷却水

《冷却水量の点検》

1. 平坦地で車体を垂直にします。
2. 冷却水がリザーバタンクの上限と下限の間にあることを確認します。

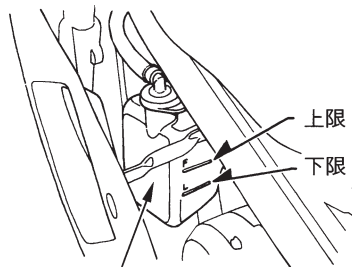
水量が下限に近かったら、上限まで補給します。

冷却水の補給は、次ページを参照してください。

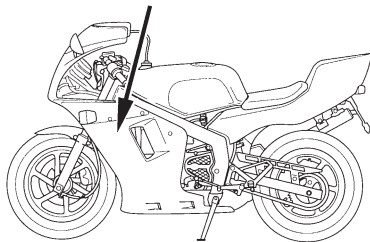
冷却水の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、ホースなどからの水漏れが考えられます。

また、リザーバタンクに冷却水がない場合も異常です。

ホンダ販売店にご相談ください。



リザーバタンク



《冷却水の補給》

補給はリザーバタンクのキャップから行い、通常はラジエータキャップを外さないでください。

アドバイス

- 指定以外のラジエータ液や不適當な水を使うとさびなどの原因となります。



エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

ラジエータキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエータが冷えていることを確認してください。

簡単なメンテナンス

冷却水指定液

ホンダ純正ウルトララジエータ液

指定液の濃度を上水道(軟水)で下記濃度に薄めてお使いください。

指定濃度:30%(寒冷地は50%)

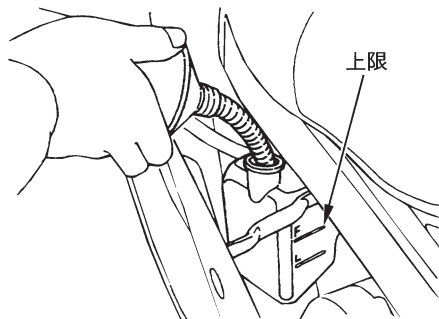
濃度による不凍温度は、

30%の場合 -16℃ まで

50%の場合 -37℃ まで

補給のしかた

1. リザーバタンクのキャップを外します。
2. 平坦地で車体を垂直にし、リザーバタンクの上限まで冷却水を補給します。
3. キャップを取付けます。



クラッチ

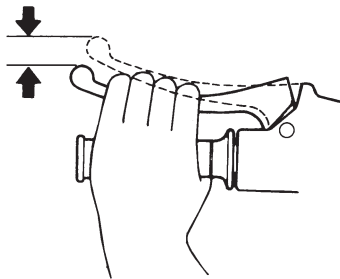
《クラッチレバーの遊びの点検》

抵抗を感じるまで、手でクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

クラッチレバーの遊び：10－20 mm

規定の範囲を越えている場合は、調整してください。

調整のしかたは、次ページを参照してください。



簡単なメンテナンス

調整のしかた

クラッチケーブルのクラッチレバー側またはクラッチ側のアジャスタにより遊びを調整します。

- 調整は、ロックナットをゆるめアジャスタを回して行います。
- 調整後、ロックナットを締付けます。

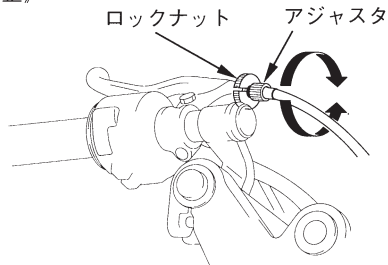
締付け後、クラッチレバーの遊びを確認してください。

また、調整後エンジンをかけ、チェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出し等がないかも確認してください。

《主調整》



《微調整》



トランスミッションオイル

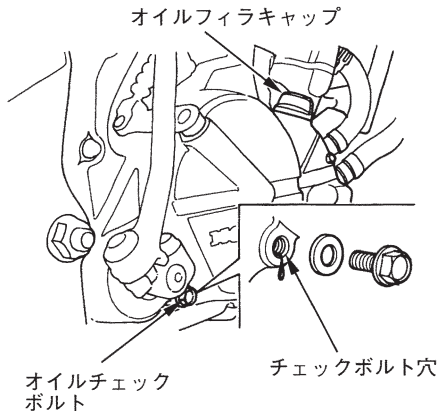
エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラーやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

《オイル量の点検》

1. 平坦地でエンジンを2～3分間アイドリングさせます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルチェックボルトを外します。
3. オイルがボルト穴の下端まであることを油面の位置で確認します。

油面がチェックボルト穴より低いときは、オイルフィラキャップを外し、チェックボルト穴からオイルが出てくるまで、オイルを補給してください。

補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。



4. オイルフィラキャップとオイルチェックボルトを確実に取付けます。

🏍️ アドバイス

- オイルは規定量より多くても少なくても、悪影響を与えます。

簡単なメンテナンス

推奨オイル

ホンダ純正オイル(4サイクル二輪車用)

	A P I 分類	S A E 規格
ウルトラ U	S E 級	10W-30
ウルトラ G P	S F 級	10W-40 または 20W-50

相当品をご使用の場合、オイル容器の表示を確認し、API分類とSAE規格が推奨オイルと一致するオイルをお選びください。

なお、API分類とSAE規格が推奨オイルと同じでも、特性が微妙に異なりこの車に適合しない場合があります。

アドバイス

- クラッチは、トランスミッションオイルに浸されています。過度に摩擦を低減するオイルは、クラッチの滑りや始動不良などを発生させます。また、エンジン性能や寿命に悪影響を与える場合があります。
 - 必要以上に摩擦低減剤を含むオイルは、使用しないでください。
 - 必要以上に摩擦を低減する添加物は、加えないでください。
 - 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルや高品質オイルでもこの車に適合しないオイルは、使用しないでください。
- オイルが変質したり、適合しないため、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

交換時期

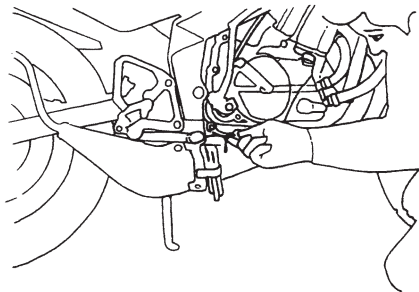
10,000 kmごと

または

2年ごと

《オイル漏れの点検》

トランスミッションケースなどから、オイルが漏れていないことを確認します。



簡単なメンテナンス

ドライブチェーン

《緩み(たるみ)の点検》

スタンドを立て、前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンの緩み(たるみ)が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

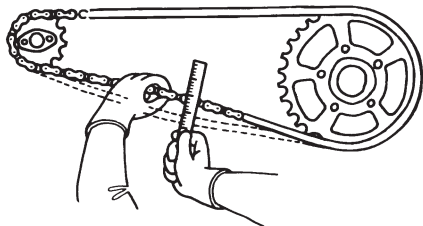
ドライブチェーンの緩み：10－20 mm

緩みが規定の範囲を越えている場合は、調整してください。

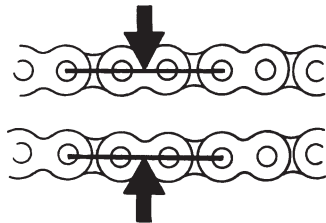
ドライブチェーンの緩みが 50 mm 以上の場合、絶対に走行しないでください。

また、車体を垂直にし、車体を前後に動かしてチェーンが滑らかに回転することを確認します。チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は異常です。

調整などの場合はホンダ販売店にご相談ください。



ドライブチェーンの緩み(たるみ)



《給油と清掃》

車体を前後に動かしてはサイドスタンドを立て、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れをブラシなどで落とします。このチェーンは、ゴムのシールを使用しているのでスチーム洗浄は行わないでください。

汚れを落とした後、給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。

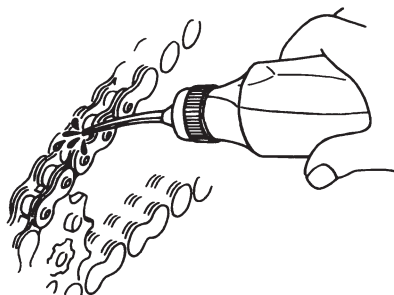
チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り、汚しますのでオイルをつけ過ぎないように注意してください。

指定オイル

“ホンダ純正チェーンオイル”または
ギヤオイル(#80～#90)

🏍️ アドバイス

- ホンダ純正チェーンオイル以外の溶剤入り潤滑油(チェーンスプレー等)は、チェーンの寿命を縮めるものがあるので使用しないでください。



簡単なメンテナンス

ヒューズ

《ヒューズの点検、交換》

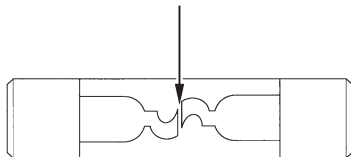
メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないことを確認します。

ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。

ヒューズ切れ



🏍️ アドバイス

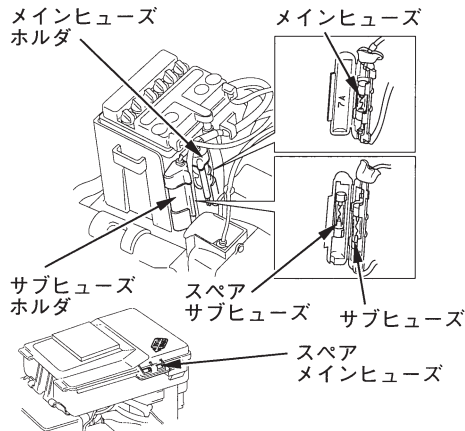
- 電装品類(ライト、計器など)を取付けるときは車種毎に決められている「ホンダアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。

取外し

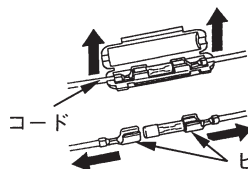
1. リヤカウルを取外します。(24ページ参照)
2. 小物入れを取外します。(60ページ参照)
3. ヒューズホルダを取出します。
4. ヒューズホルダを開け、ヒューズコード両端を持って引き上げ、ヒューズコネクタをスライドさせます。
5. ヒューズコネクタを広げないように注意して取外します。
スペアメインヒューズは、小物入れのヒューズホルダにあります。
スペアサブヒューズは、サブヒューズホルダ内にあります。

取付け

1. ヒューズをヒューズコネクタに取付け、ヒューズが容易に横方向に動かないことを確認します。
2. ヒューズの両端を真上から押し込んでヒューズホルダに組付けます。
3. ヒューズホルダを閉じ、バッテリーボックスの横に格納します。

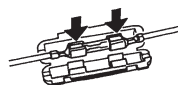


《取外し》



《取付け》

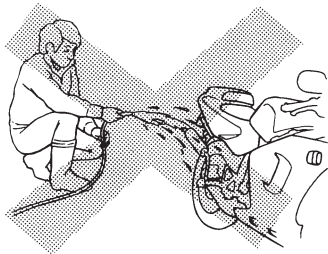
真上から押し込む



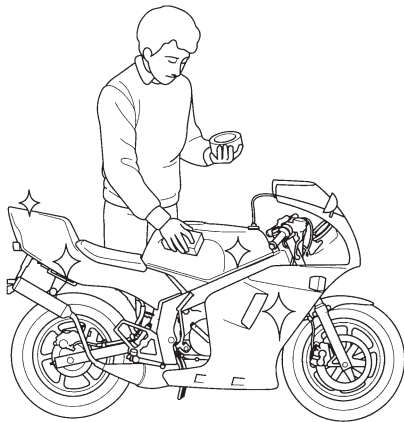
車のお手入れ

- 洗車時、マフラに水を入れないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。
- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。

洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。



- 車にワックスをかけるとき、塗装面及び樹脂部をコンパウンド、ワックスなどで強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。



フェアリングの取扱い

フェアリングの取扱いには次の項目をお守りください。

- ウインドスクリーン、フロントフェンダは傷がつきやすいので、清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを落してください。
汚れのひどい時は、中性洗剤を使用してください。
- ガソリン、ブレーキ液または洗剤等の化学物質がメータ、ウインドスクリーン、フェアリング、サイドカバー等の樹脂部品およびヘッドライトにかかると、亀裂などが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。
- ウインドスクリーンに貼付されているコーションラベルは、はがさないでください。

地球環境の保護について

地球の環境を守るため、使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。

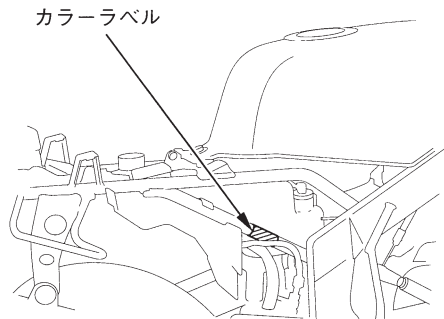
また、将来お車を廃車される場合も同様です。これらのものを廃却する場合は、お買いあげのホンダ販売店にご相談ください。

色物部品をご注文のとき

色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは、リヤフレームパイプに貼ってあります。

(リヤカウルの取外しは、24 ページ参照)



マフラの純正マークについて

マフラの後部には、ホンダ純正部品を表す
“H O N D A”マークが刻印されています。

“H O N D A”マーク



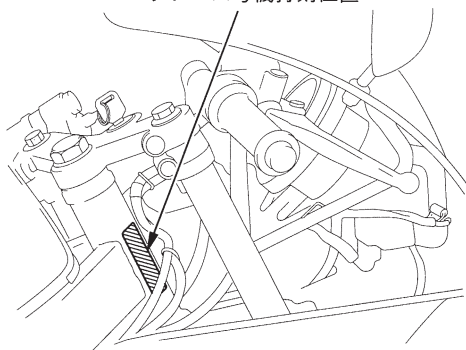
H O N D A

フレーム号機

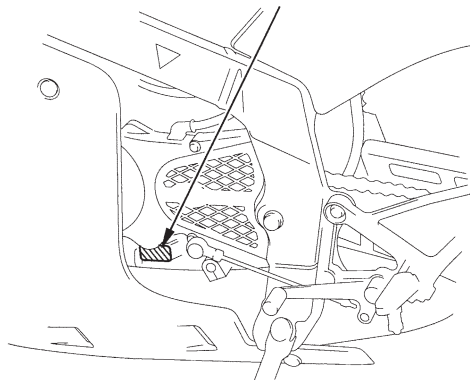
フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続に必要です。

また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りにもなります。ナンバプレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

フレーム号機打刻位置



エンジン号機打刻位置



オーバーヒートしたとき

《オーバーヒートの処置手順》

1. メインスイッチをOFFにし、エンジンが冷えるのを待ちます。
2. エンジンが冷えてから、リザーバタンクの冷却水量を確認します。(62 ページ参照)
 - 冷却水が不足していたら、リザーバタンクに補給してください。(63 ページ参照)
3. ラジエータホースなどを点検し、水漏れがなければ確認します。
 - 水漏れがある場合：
エンジンをかけず、ホンダ販売店にご相談ください。
 - 水漏れがない場合：
走行可能です。ただし、異常が再発するときは、ホンダ販売店にご相談ください。
4. 異常が再発しない場合でも、なるべく早くホンダ販売店で点検を受けてください。

エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか。
- 燃料タンクにガソリンはありますか。
- 1. メインスイッチをOFFにします。
- 2. チョークレバーを完全に戻します。
- 3. スロットルを全開にします。
- 4. キックペダルを4～5回踏んでエンジンを回します。
- 5. メインスイッチをONにし 34 ページの始動要領でエンジンをかけてください。

故障の修理

- お近くのホンダ販売店にお申しつけください。
- むやみに修理しないで、早くホンダ販売店で点検整備を受けることが、お車を長持ちさせる秘けつです。

主要諸元 《N S R 50》

型	式	A-AC10
長	さ	1,580 mm
幅		590 mm
高	さ	935 mm
軸	距	1,085 mm
原 動 機 種 類 / 総 排 気 量		ガソリン・2サイクル/ 0.049 ℓ
車 両 重 量		87 kg
乗 車 定 員		1 人
タ イ ヤ	前 輪	100/90-12 48J
	後 輪	120/80-12 54J
最 低 地 上 高		105 mm
燃 料 消 費 率		59.2 km/ℓ (車速30 km/h)
制 動 停 止 距 離		3.0 m (初速20 km/h)
最 小 回 転 半 径		2.4 m
圧 縮 比		7.2
圧 縮 圧 力		11.0 kgf/cm ² - 400 rpm
最 高 出 力		7.2 PS/10,000 rpm
最 大 ト ル ク		0.65 kg-m/7,500 rpm
燃 料 タ ン ク 量		7.5 ℓ
点 火 形 式		C D I 式 バッテリ点火

点 火 時 期		B T D C 17° / 1,500 r p m
アイドリング回転数		1,400 rpm
点火プラグ	N G K	B R 7 E S B R 8 E S B R 9 E S
	日本電装	W22 E S R-U W24 E S R-U W27 E S R-U
機関から変速機までの減速比		4.117
ク ラ ッ チ 形 式		湿式多板コイル・スプリング
変 速 機 形 式		常時噛合式
変 速 機 操 作 方 式		左足動式
変 速 比	1 速	3.166
	2 速	2.062
	3 速	1.500
	4 速	1.173
	5 速	1.000
	6 速	0.884
第 一 減 速 比		3.000

主要諸元 《N S R 80》

型	式	H C 06
長	さ	1,580 mm
幅		590 mm
高	さ	935 mm
軸	距	1,080 mm
原 動 機 種 類 / 総 排 気 量		ガソリン・2 サイクル/ 0.079 ℓ
車	両 重 量	88 kg
乗	車 定 員	1 人
タ イ ヤ	前 輪	100/90-12 48J
	後 輪	120/80-12 54J
最 低	地 上 高	105 mm
燃 料	消 費 率	40.2 km/ℓ (車速60 km/h)
制 動	停 止 距 離	7.0 m (初速35 km/h)
最 小	回 転 半 径	2.4 m
圧	縮 比	7.1
圧	縮 圧 力	11.0 kgf/cm ² - 400 rpm
最 高	出 力	12 PS/10,000 rpm
最 大	ト ル ク	0.97 kg-m/8,000 rpm
燃 料	タ ン ク 量	7.5 ℓ
点 火	形 式	C D I 式 バッテリ点火

点 火 時 期		B T D C 14° / 1,500 r p m
アイドリング回転数		1,400 rpm
点火プラグ	N G K	BR 6 E S BR 7 E S BR 8 E S
	日本電装	W20 E S R-U W22 E S R-U W24 E S R-U
機関から変速機までの減速比		4.117
ク ラ ッ チ 形 式		湿式多板コイル・スプリング
変 速 機 形 式		常時噛合式
変 速 機 操 作 方 式		左足動式
変 速 比	1 速	3.166
	2 速	2.062
	3 速	1.500
	4 速	1.173
	5 速	1.041
	6 速	0.923
第 一 減 速 比		2.187

サービスデータ

ドライブチェーンの緩み(たるみ)		10-20 mm
タイヤ空気圧	前 輪	1.50 kgf/cm ²
	後 輪	1.75 kgf/cm ²
エンジンオイルの量 (分離給油)		1.1 ℓ
トランスミッション オイルの量	全 容 量	0.9 ℓ
	オイル交換時	0.8 ℓ
クラッチレバーの遊び		10-20 mm
ヒューズ	メインヒューズ	7 A
	サブヒューズ	5 A
点火プラグの点火すきま		0.7-0.8 mm
エアクリーナエレメント	形 式	ウレタンフォーム式
電球 (バルブ)	ヘッドライト	12V 30/30W
	テール・ストップランプ	12V 18/5W
	ウインカ	12V 10W

お問い合わせ、ご相談は、お買い求めの《ホンダ販売店》もしくは全国共通
フリーダイヤルまたは直通電話で下記のお客様相談センターがお受け致
します。

フリーダイヤル	0 1 2 0 — 0 8 6 8 1 9
直通電話	0 3 — 3 4 2 3 — 4 2 1 1

本田技研工業株式会社 お客様相談センター
受付時間 9:00~12:00 13:00~17:00
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1

- 所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

